

第 19 回精華町環境推進委員会 会議録

会議の名称		第 19 回 精華町環境推進委員会
開催日時		令和元年（2019 年）10 月 7 日(月) 10 時 00 分～11 時 30 分
開催場所		精華町役場 2 階 201 会議室
出席者	メンバー	上甫木委員（委員長）、木下委員、寺本和生委員、 寺本英樹委員（代理）、畑中委員、牟田委員
	事務局	精華町 健康福祉環境部 岩前部長 精華町 健康福祉環境部 環境推進課 竹島課長、藤原課長補佐
欠席者		井澤委員、井上委員、山本委員
議 題		議事 ① 精華町の環境（平成 30 年度分）（案）について ② 第 1 次精華町環境基本計画の総括について ・総括の方針について ・子どもアンケート結果速報について ③ その他
資 料		資 料 1 令和元年度スケジュール（予定） 資 料 2 第 1 次精華町環境基本計画の総括について 資 料 3 精華町の環境（平成 30 年度分）（案） 参考資料 1 第 18 回精華町環境推進委員会会議録 参考資料 2 精華町環境基本計画「精華町環境ビジョン～“環境交都” をめざして」 参考資料 3 精華町の環境（平成 29 年度分）（平成 31 年 3 月発行） 参考資料 4 精華町版環境日記 2019 子どもアンケート調査票
傍 聴 者		なし

1. 開会

- ・委員の交代について
- ・健康福祉環境部長あいさつ

2. 議事

① 精華町の環境（平成30年度分）（案）について

上甫木委員長：それでは、次第に沿って進めていきたいと思います。事務局からの説明を受けたいと思います。

事務局：資料1、資料3について説明させていただきます。

○資料説明（事務局） 資料1、資料3について説明

上甫木委員長：本日、初めてご参加いただいた委員さんもおられますので、わかりにくい部分もあったとは思いますが、精華町では、精華町環境基本計画に定めた目標について、毎年どのように取り組みが進んだのを、年次報告という形で取りまとめを行っています。

上甫木委員長：4頁と5頁のグラフについてであるが、全国や京都府の数値に対してどうなのか、比較できるコメントがあると良いのではないかと。

牟田委員：古紙の回収について実態を教えてください。古紙回収に出したいけれど、個人情報に記載されたものがあり、回収に出すのに手間がかかるので、情報の機密について安全であるのか教えてください。機密保持されているのか、回収をされてからの経過を具体的に教えてください。

事務局：古紙回収については、地域で契約されている分と町で契約している分がある。精華町で古紙回収している分については、直接古紙回収業者の作業場に持ち込み処理しています。

牟田委員：回収業者との契約の中に機密保持について記載があるのか。ごく一部であるが、軽トラック一杯分の文書がある。古紙については、原理原則に基づいて個人の機密が守られるのが望ましい。

事務局：雑紙への呼びかけを進めているが、個人情報が記載されているものまでについては求めている状況です。

牟田委員：総括については、精華町環境行政のこの10年間の変化について、当時の状況に対して大きく取り組みが進んできた。成果を分かりやすく紹介していただきたい。

畑中委員：平均気温の上昇など環境に関する客観的な情報があると良いのではないかと。

次期計画では、このあたりについても町民の方にお伝えできると良い。

寺本和生委員：昨日、精華町のクリーンリサイクル運動に参加したが、精華町のまちは本当にごみが少なく美しいと改めて感じた。

木下委員：町民として、また、所属している団体としては、色々と活動してきているが、町もさまざまな形で環境に関して取り組まれていることを感じている。

寺本英樹委員（代理）：環境教育の部分で環境日記をはじめとして、取り組まれていることがとても良いと思う。しかし、大人に対しての影響の与え方や教育の機会をつくるのが中々難しいと感じる。親世代に子どもから波及効果があれば良いと思う。

牟田委員：掲載されているグラフについて、影響を与えた取り組みなどが、分かりやすい表現で伝えられると良い。どうしてそうなったのかが分かると良い。

上甫木委員長：要因分析を可能な範囲でご検討いただければと思う。次回、少し全体についてのデータを細かく紹介していただいて、本日のご意見を参考に修正をお願いしたいと思う。

② 第1次精華町環境基本計画の総括について

上甫木委員長：それでは引き続き、2つ目の案件、第1次精華町環境基本計画の総括について説明をお願いします。

○資料説明（事務局） 資料1、資料2について説明

上甫木委員長：総括の方針などについて、何かご質問等ございませんか。先ほど牟田委員の方から、これまでの取り組みを総括されてはいかがですか、というご意見をいただきましたがいかがでしょうか。方針はこれらの再構築をするための視点でしょうか。

事務局：これからに向けた視点です。

上甫木委員長：これからという事ですので、その他の視点もあると思いますので、何かございましたらご提案をお願いします。

木下委員：環境に関する取り組みについて、町民に浸透している実感がなく、町民の環境に対する関心があるとは思えない状況である。大人が果たしてどのような事を考えているのか分からないなど、分からないことがたくさんある。実際に環境というのは、身近に考えられることですが、幅広いことですので、どうやって取り組んでいけば良いか分からない状況にあるのではないかと思います。

上甫木委員長：5頁の下に計画の進め方という図があるが、ネットワーク会議でやるべき話とプラットフォームに役割の重複がありますが、次期計画では連携や一体化ができないでしょうか。

木下委員：連携という部分では、環境教育となるとすごく大変な思いをしているので、

連携できることが望ましい。

上甫木委員長：当初、環境基本計画を作るときにもプラットフォームの役割をネットワーク会議の中でできないかとの話があった。

木下委員：学校は年間スケジュールが詰まっているので、中々難しい面もあるのが実情。

事務局：イベント的なものは多いが、継続的な取り組みに繋がるものにしていくのは難しい面もあります。

木下委員：子どもたちのアンケートをみても、どういう環境教育をした上での結果がでているのか見えてこない面もある。

上甫木委員長：小学校の環境教育については、各教科の中での取り組みである。限られた時間の中で行っているが、学校によっては学習計画を立てられて取り組まれている所もある。

事務局：昨年まで教育委員会にいたが、学校も取り組まなければならないことが詰まっているのが実態で、環境教育を行う場合もイベントごとになってしまっているケースが多い。環境団体と先生方とのマッチングが非常に難しい状況にあります。

上甫木委員長：4年生のごみの学習や5年生の自然についての学習などうまく取り組めると良い。プラットフォームに行政の方も参加いただいた方が良いのかもしれない。企業についてはどうか。精華町の場合、先進的な企業がたくさんあるので、企業との連携が非常に重要であると思う。

寺本和夫委員：現在の計画では住民が住民団体等に含まれており、住民という視点が無い。今後の10年計画では住民という視点を入れるというのが重要ではないか。

上甫木委員長：個としての住民を計画の中に取り込めたら何か変わってこないかというご意見であり、非常に重要な視点だと思う。

寺本英樹委員（代理）：先ほどの木下委員の意見にあるように、環境に関する取り組みを行っている層は意識が高く、今後は取り組んでいない人にどのようなアプローチをするかが大切だと思う。せいか祭りの中で環境に関するブースの出展や、運動会や自治会のイベントの中で環境意識を高められるような啓発ができると、小さなことで大きな効果が見込めるのではないか。

上甫木委員長：リーディングプロジェクトについては、ピラミッドの底辺への広がりについては状況がつかめているのでしょうか。

事務局：クリーンリサイクル運動などはすべての自治会に参加いただき、大変多くの町民の皆さんにご参加いただいている状況です。

上甫木委員長：これまでの参加状況について数字的なものが掴めると一番良いが、環境以外のところでアプローチして、これまでのご苦労と成果を総括しながら次へ繋げて行くことが必要であると思う。

牟田委員：環境に関しては、町民個人単位でも関心が無いということはないと思う。ごみの分別など生活に身近なものであるが、住民の意見の集大成が欠如している。

生活の中で取り組んではいるが、何かモヤモヤしている状況はいっぱいあると思う。住民の不満や困っていることを把握することも一案ではないか。ルールに対してステップアップするためのアンケートを求めると意見集約もできる。要望を吸い上げることも次に繋がるのではないか。

事務局：広く住民に対するアンケートはこれまで行っていないのが現状です。

上甫木委員長：環境日記を提出した子どもたちの意識は間違いなく高いが、子どもたちが精華町の環境の本当の素晴らしさを分かっているのかと少し不安な面もある。現状は大切だと思っているが、歴史や文化の豊かさや個人が精華町に対する愛着を持つということについても精華町としては持っておきたい。精華町への愛着を育てるようなものも持っておきたい。

畑中委員：環境は、大きくは地域のコミュニティの話と地球規模の二本立てである。澁澤栄一さんのお孫さんである澁澤寿一さんのお話では、新潟の北部に高根村があり、村を挙げての奉納相撲が大変有名で、優勝者の家で準備し振る舞いを行う。今でも、家ですべて振る舞いの準備をする。このような風習などが、他の色々な地域でも祭がその中心にあったりする。環境省で地域経済循環分析を行えるツールがあり、その分析結果を見てみると岸和田市ではお金が地域外にほとんど出ずに地域内で回っていることがわかる。市の職員の方に聞いてみると、ちょっとした仕出しもまちの中で頼む構造ができているとお話であった。担い手の話は、2・6・2と言われているが、必ず2割は無関心層がいる。6頁の表に電力の自由化や3.11、SDGs モデル都市など社会的なトピックを入れてはどうか。環境的には次の10年がポイントとなる。4月にドイツに視察に行ったが地域の経済の構造がそこでお金が回っている。行政も農業など弱いところにお金を入れており、皆さん兼業である。農業で収入の2割と収入が多面的でありヨーロッパは社会構造が分散型である。また、地域に中小企業で良い会社が増える。そういう意味で人口規模も精華町は良いポジショニングであると思われる。

上甫木委員長：地域経済循環圏について旧の部分と新の部分の循環があると、地域の文化として位置付けると良いのではないか。

畑中委員：地域循環共生圏の本質は「誰一人取り残さない」こと。環境と福祉の部局と一緒にマネジメントできることも精華町の良い点である。

寺本和夫委員：個人に焦点をあてた考え方も求められる。

牟田委員：旧村と新興住宅が混在しているが、10年前に比べてまちが非常に綺麗になっていると思う。もっとこの10年の良い面を出していくことをアピールしていくことがあってもよいのではないか。住みやすい街になっていることを誇らしげに紹介してほしい。

上甫木委員長：具体的に成果と課題を書いていただいて、町民の方にアナウンスすることが大切というご意見であると思う。他、いかがでしょうか。色々ご意見を

いただきましたので、本日の意見を踏まえて次回も引き続きご検討をお願いできればと思います。

畑中委員：情報提供であるが、これまで大企業のみが対象であった RE100 に中小企業が参加できる枠ができた。また、必要があればご案内させていただきます。

上甫木委員長：他、何かございますか。この案件で終了にさせていただければと思います。

③その他

事務局：事務局からのご案内です。委員任期がこの 11 月 13 日で満了となり、11 月 14 日から新しい任期となるため、現在、公募委員を募集中です。また、食品ロス削減キャンペーンを現在実施中ですので、こちらにつきましてもよろしく願いいたします。

上甫木委員長：それでは、本日の議題は以上ですので、進行を事務局にお返しします。

3. 閉会

事務局：今回は 12 月中旬ごろの開催を予定しています。本日はお忙しい中、長時間に渡り活発なご審議をいただき誠にありがとうございました。

(以上)

(注釈)

- ・ 2・6・2：「働きアリの法則」とも言われる。上位 2 割はよく働き、6 割は普通、下位 2 割はあまり働かないとされている。
- ・ 3. 1 1：2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震の発生とそれに伴う東日本大震災を指す。
- ・ SDGs：持続可能な開発目標。2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標。
- ・ RE100：事業運営を 100%再生可能エネルギーで調達することを目標に掲げる企業が加盟するイニシアチブで、「Renewable Energy 100%」の頭文字。